

各 位

会 社 名 株式会社 朝日ラバー
代表者の役職名 代表取締役社長 伊藤 潤
(JASDAQ コード番号 5 1 6 2)
問い合わせ先 管理本部長 堀 信幸
T E L 0 4 8 - 6 5 0 - 6 0 5 1

第 11 次三ヵ年中期経営計画（V－1 計画）の策定について

当社は、平成 26 年 3 月期を初年度とする三ヵ年の「第 11 次三ヵ年中期経営計画（V－1 計画）」（平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月）を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 第 11 次三ヵ年中期経営計画の位置づけ

このたびの中期経営計画を策定するにあたり、独自の製品開発による成長を描くため、中期三ヵ年の二回分の 6 年後の 2020 年（平成 32 年 3 月期）を見据えたビジョンを「AR－2020VISION」として決めました。

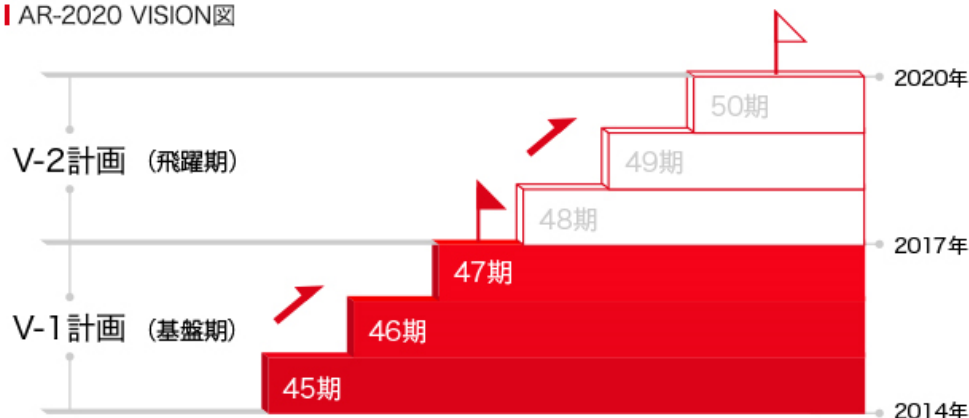
AR－2020VISION

- ・技術革新を基盤に、新しい価値を創造し続ける企業になる。
- ・現在の仕事に慢心せず、常に変革を求め、経営環境の変化に応じ継続的に磨きをかける。
- ・人財こそが、事業運営の要とし、人材の育成を行う。

このビジョンの実現に向けて、二つのステージで構成し、最初のステージの最初の平成 29 年（2017 年）3 月期までの三ヵ年を「V－1 計画」、次のステージの平成 32 年（2020 年）3 月期までの三ヵ年を「V－2 計画」として中期、単年度の経営計画を策定して進めていきます。

「V－1」計画では、2020 年に向けて飛躍するための基盤を確立させていきます。

I AR-2020 VISION図



2. 中期経営方針

(1) 既存事業の質・量の継続的成長

- ・国内事業は質的成長を目指します。お客様から支持される商品・技術・しぐみを育成し、事業の付加価値の向上を目指します。
- ・海外事業は量的成長を目指します。経済成長の向上が期待されるアジア諸国において朝日ラバー本体の工場及び中国工場のものづくり改革を行います。

(2) 新市場・新分野への事業展開

- ・既存事業の成長戦略と併せ、新しい事業分野の開発・育成に取り組みます。新規事業のマイクロ流体デバイスの事業確立だけでなく、さらに2020年に向けて新市場・新分野への事業展開を目指します。

(3) 2020年に向けた事業基盤の強化と整備

- ・収益基盤の強化と会社を支える経営体制・人財の強化と整備を行います。

3. 連結経営目標

(1) 連結財務目標

この三ヵ年計画以降にも継続して成長していくための体制を強化しつつ、マイクロ流体デバイスなど新事業や新製品で収益規模を拡大させます。

平成29年(2017年)3月期目標(V-1計画最終年度)

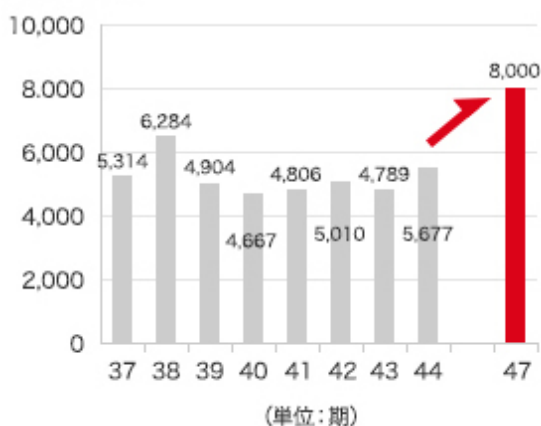
連結売上高 80億円(平成26年3月期実績 56.7億円)

連結営業利益 8億円

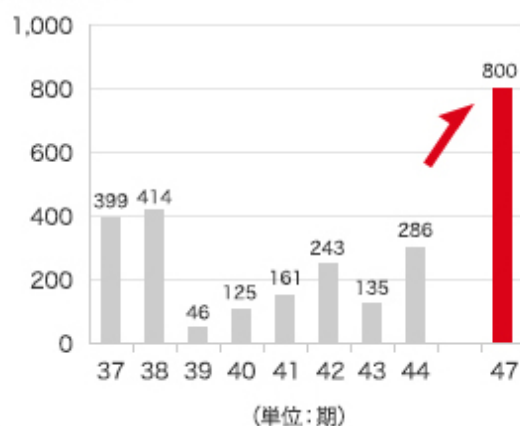
連結売上高 80億円

連結営業利益 8億円

(単位:百万円)



(単位:百万円)



(2) 連結設備投資計画

24.5億円

(平成27年(2015年)3月期~平成29年(2017年)3月期累計計画)

4. 重点事業分野の連結売上高目標と設備投資計画

重点事業分野	売上高目標		設備投資 計画	主な重点戦略製品
		平成 26 年 3 月期実績		
自動車	37 億円	28 億円	10 億円	ASA COLOR LED 接点ラバー、O リング など
医療	13 億円	11 億円	6 億円	プレフィルドシリンジガセット ニードルレス製品 など
ライフサイエンス	16.5 億円	4 億円	8.5 億円	マイクロ流体デバイス 卓球ラケット用ラバー など
その他	13.5 億円	13 億円	—	RFID タグ製品 など
合計	80 億円	56 億円	24.5 億円	

5. 海外展開

当社グループは、お客様のご要望に応えるため最適なロケーションとして、アメリカと中国に販売子会社と生産子会社を設置しています。

価格競争ではなく、お客様に密着した活動による顧客満足度向上で販売拡大につなげながら、現地化を促進するための人材育成など地力を高めていきます。

また、子会社間のものづくりと販売の連携をさらに強化させ、グループとしての相乗効果を発揮できるよう進めていきます。

以 上